



## 家庭学習が変わります

教頭 門倉純一

葛塚小学校では、1年生のこの時期からも家庭学習を進めています。ご家庭の皆様から日々ご協力いただいていることに、感謝申し上げます。

家庭学習を進めることには、次の3つの効果があります。

- 1 学習習慣が身に付き、学び続ける力が育ちます。
- 2 学習内容の理解が進み、学力が向上します。
- 3 できる実感を味わい、学習意欲も向上します。



いいことづくめなのですが、実際には、家庭で何の学習に取り組んだらよいか分からず悩むことが多々あります。

そこで、今年度からは、次の点に力を入れることにしました。

### 学校の授業についての予習と復習をする。

現在学校の授業でやっていることであれば、子どもたちも確実に分かります。

ですから、**予習**として「教科書を読む、調べる、ノートに書く」「資料を読み考えをもつ」こと、**復習**として「学習の振り返りを書く」「参考になった友達の考えを書く」「授業の学びを生かして練習問題をやる」「授業のノートをもう一度書き写す」などができそうです。さらには、「授業で学んだことを生かして、関係することをさらに調べてみる」などと、学びを発展させることもできます。

低学年であれば音読（暗唱を含む）などによる予習・復習が、3年生以上なら家庭学習ノートに予習・復習を書き取りすることなどが可能です。

これらをとおして、家庭学習が学校の授業に直接役に立ち、上記の1～3が達成されることでしょう。



学校では、次のページ以降の活動内容を重点にして取り組んで参ります。ぜひ各ご家庭では、学年に応じて根気強くお子さんと家庭学習に付き合ってください、頑張っている姿を褒めてほしいと願っております。

## 〈特別支援教育部〉

# どの子にも分かりやすい授業を…

## 葛小 UD スタンドアード10を取り組みます！

今年度も、葛塚小学校では、教育におけるユニバーサルデザイン（UD）の視点を入れた取組を行います。教育におけるユニバーサルデザイン（UD）は、「ぼくにも分かった。」「私にもできた」という自信をもたせませす。どの子も分かる授業と集中できる環境作りをするため下のような10個の項目（葛小 UD スタンドアード10）の取組を全校体制で行います。

| 平成29年度葛小 UD スタンドアード10 |                                     | 項目 |
|-----------------------|-------------------------------------|----|
| ①                     | 1時間の流れを明示する。（プレートのボード活用）            |    |
| ②                     | 発問や指示は一時に一事にする。                     |    |
| ③                     | 視覚教材を活用する。（ホワイトボード スケッチブック等）        |    |
| ④                     | 学習課題が終わった後にやるべきことを用意し、空白の時間をつくらない。  |    |
| ⑤                     | 教室前面の掲示物は、教育目標（1日の流れ）のみとする。         |    |
| ⑥                     | 授業後、黒板はきれいに消す。                      |    |
| ⑦                     | 学習用具やファイル類の置き場所を決め、片付け方を文字や写真で明示する。 |    |
| ⑧                     | 提出物の置き場所を明示する。                      |    |
| ⑨                     | 休み時間や教室を空ける時、下校時は、椅子を入れる。           |    |
| ⑩                     | 話し手の方に体を向けて、話を聞かせる。                 |    |

## 視覚化でひきつける

なかなか集中できない子をひきつけるには、基本的には視覚化が有効であると言われています。そこで、特に今年度のポイントは、当たり前、あるいはすでに知っているルールを写真に撮って貼るなど「視覚化」することにしました。「百聞は一見にしかず」と言いますが、子どもたちは、口で何回も言うより、写真や書いた文字で理解が容易になることが多くあります。

例えば青ラインを下駄箱の上に入れて帰るということがなかなかできなかった子が、右のような写真を下駄箱に貼ったところ、きちんと正しく入れて帰ることができました。



葛小 UD スタンドアード10を有効に活用して、授業のユニバーサルデザイン化を進め、誰もが安心して学べる環境を整えます。

保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

（特別支援教育部 主任 羽田 睦子）

## 職員紹介

この度、養護助教諭として参りました。子どもたちが楽しく、健やかに学校生活を送れるように努めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお祈ひします。

養護助教諭 なかじま あつみ  
中島 淳美

5月より支援員としてお世話になってひます。子どもたちが楽しく充実した学校生活を送れるよう、精一杯、お手伝ひしたいと思ひてひます。どうぞよろしくお祈ひします。

特別支援教育支援員 くまくら ひろみ  
熊倉 浩美

# 今年度も、学級力向上の取組を続けます！

昨年度から、心の教育部の目指す子どもを「自ら課題を見付け、話し合いを通して解決する子ども」として、学級力向上の取組を実践してきました。その結果、学校評価アンケートで「話し合いをしてよかった。」「話し合いを通して自分たちで決めたことを意識して行動できた」と肯定的に回答した児童が90%を超え、大きな成果を上げることができました。また、「廊下歩行が良くなった」「落書きが減った」などの職員の声が聞かれ、アンケート結果が児童の姿に反映されていることも分かりました。

しかし、1か月に1回の話し合いでは、話し合いで決めたことをじっくり取り組ませられないという意見があり、改善が必要でした。

そこで今年度は、学級力向上の取組を継続しながら、次の改善策を試みます。

## ○ 学級力向上の話し合いを2か月に1回に変更する。

では、この改善策で、どのようなことが期待できるのでしょうか？

### 1 話し合いで決めたことについて、じっくり取り組むことができます。

2か月に1回だと、学級の取組の様子に合わせて指導することができます。途中で取組がうまくいかなかったら、もう一度話し合っ改善させることもできます。

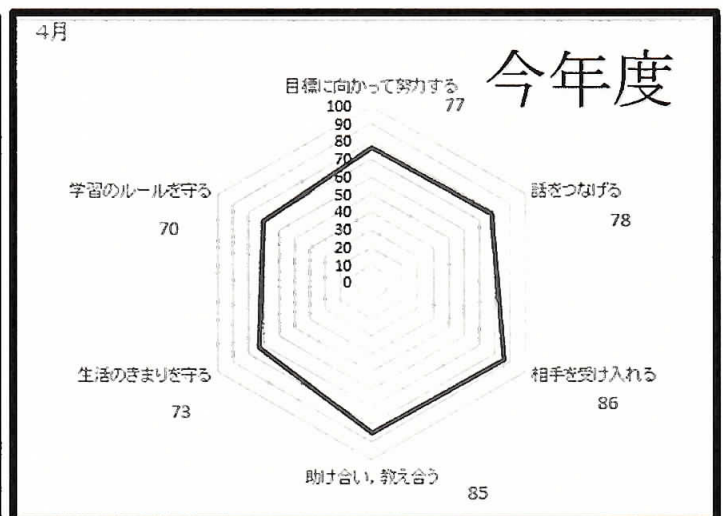
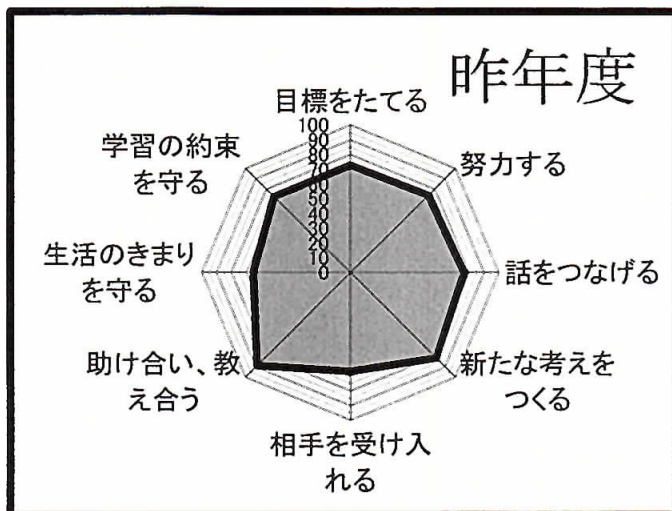
### 2 学校生活のめあてと関連させることができます。

学級力向上の話し合いと学校生活のめあての期間を同じにしました。このことで、学校生活のめあても同時に意識しながら行動させられるようになります。

また、他にもこんな変更点があります。

## ◎ 学級力アンケートを8項目から6項目にしました。

学級力アンケートの項目を見直し、精選を図りました。児童がより答えやすいようにしました。



## ◎ 自己有用感の向上を意識した取組をします。

昨年度行われた新潟市生活学習意識調査では、新潟市平均に比べて、葛塚小の児童の自己肯定感（自分にはよいところがあるという感覚）が低いという結果が出ました。そこで、学級力向上の取組だけでなく、教育活動全体で自己有用感（自分は誰かの役に立っているという感覚）の向上を意識した取組（ほめほめシャワー、きらり郵便など）を行い、自己肯定感の向上を図ります。

今後も、保護者の皆様のご理解とご協力をお願いします。

（心の教育部 主任 松本 和大）

## 授業改善のキーワード「日常」と「継続」！

昨年度、自ら課題を解決し自分の考えを伝えたり、自ら課題を見付け話し合いを通して解決したりする子どもの姿を目指して、日々の教育活動に取り組んでいきました。この姿を目指すために、「問題解決の7つの段階で授業を進めること」「ペア対話の指導を行うこと」を毎時間の授業において、全クラスで行ってきました。

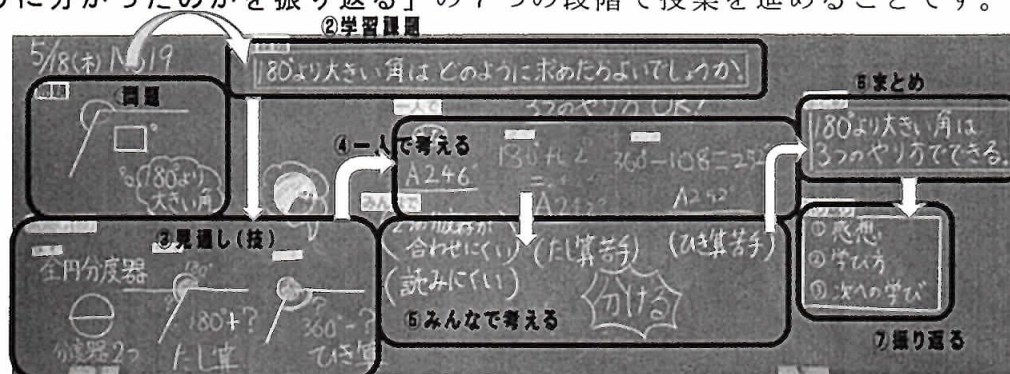
1年間の取組で、子ども同士が対話を通して問題を解決する授業を重ねることで、自ら課題を解決できる能力が身に付いてきたという大きな成果をあげることができました。しかし、成果と同時に、7つのプレートの使い方や、ペア対話の必要性などにおいて課題があることも確認することができました。

そこで、今年度も、昨年度と同様、自ら課題を解決し自分の考えを伝えたり、自ら課題を見付け話し合いを通して解決したりする子どもの姿を目指していきます。そのために、次の2つのことに取り組んでいきます。

- 学習課題とまとめを核とした葛小独自の問題解決型の授業を継続して行う。
- 優れた学習課題を設定するとともに、深い学びにつながる「ペア対話」を継続して行う。

葛小独自の問題解決型の授業とは、「①問題を理解する」「②学習課題を設定する」「③見通し（技）をもつ」「④一人（ペア）で考える」「⑤みんなで考える」「⑥分かったことをまとめる」「⑦どのように分かったのかを振り返る」の7つの段階で授業を進めることです。

この7つの段階を表すプレートを使って学習を進めていきますが、学習内容や子どもの学習状況に応じて7つのプレートを一部しか使わなかったり、プレートの順番



が前後したりと、弾力的に授業を進めていきます。また、全員の子どもが自分の考えをもつようにするために、新しく学習課題を設定した後、「③見通し（技）をもつ」活動を行います。この活動を行うことで、全員が自分の考えをもつことができます。更に、みんなで考えを検討する話し合いをすることで、「僕は、最初、この計算のやり方を～のように考えたけど、Aさんのやり方と比べてもう一度考えたら、Aさんのやり方が分かりやすく便利なのに気付きました。」という深い学びにつながります。

また、「困った。どうしよう。」「なぜ？」という問いを生む問題や提示の仕方の工夫を行うことで、優れた学習課題を設定していきます。そうすることで、教師が「ペアで話をしましょう。」という指示がなくとも、自然とペアでの対話が生まれ、深い学びへとつながっていきます。

このように、自ら課題を見付け、話し合いを通して解決する子どもの姿、自ら課題を解決し自分の考えを伝える子どもの姿を具現するために、全職員が日常的に授業実践を行うと共に、1年間継続させていきます。今年度の授業改善のキーワードは、「日常」と「継続」です。子ども一人一人に力を付けるため、これからも、保護者の皆様の変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

(学力向上部 主任 高橋 淳)